

Title	The American Historical Review, Vol. 27. No 2-Vol. 28. No. 1
Sub Title	
Author	恒松, 安夫(Tsunematsu Yasuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.2 (1923. 2) ,p.135(295)- 139(299)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大正十一年度雑誌主要論文 書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0135">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230200-0135</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

人身御供 (七、四、三三五、七、五、四四六)

喜田 貞吉

日本の人身御供傳説は山人なきが里人の小女を要求した事實に基くらしい。

征夷大將軍名稱考 (七、五、四三一)

喜田 貞吉

此軍職は平安朝に於て久しく補任が中絶してをたが頼朝によつて中興せられた。その以前に木曾義仲が征夷大將軍に任ぜられたとなつてをるが之は征夷大將軍の誤りである。

奥州に於ける御館藤原氏 (七、六、五〇七)

喜田 貞吉

御館藤原氏は俘囚の上頭で、頼朝の奥州征伐は征夷の軍であり頼朝が征夷大將軍の名を得たのは虚名ではない。

憑物系統に關する民族的研究 (八、一、九)

喜田 貞吉

飛驒谷の馮物筋牛蒡種と云ふ名は、護法胤の謂であつて、憑物系統は畢竟するに護法系統である。佛者は地主神を護法神として使役した。地主神即ち先住民の子孫が護法胤として各地に残りに敬遠せられてゐるのである。

みやつこ及やつこ名義考 (八、三、四六九)

喜田 貞吉

ミヤツコは宮つ子で、ヤツコは家つ子から起つたらしい。

職人町人等の國名を呼び名とした事の意義

(八、二、三八五)(八、三、四七三) 喜田 貞吉

平安朝の弊政により浮浪人となつた公民が、多く非人法師の徒となり、その大多数が國名を稱呼とした。江戸時代になつて彼等の通稱とする國名は他の町人職人の受領のつもりの國名と形が一致するので自分等も受領の名の積りになり國名以外の官名類似の名をまで唱へることになつたものと察せられる。

くゞつ名義考 (八、四、五五五及び八、五、六四九)

喜田 貞吉

傀儡子たる浮浪民をクグツと呼ぶに至つた根原は、もと蝦蟇が其の鳴聲からククと呼ばれ、一方浮浪民が多く人目を避けて夜間などに徘徊すること、又其好んで谷間に棲息することなどから、之をクク即ち蝦蟇に比して蟻人即ちクグトを呼びそれがクグツとも訛り、谷クグとも呼ばれるに至つたものであらう。

旃陀羅考 (八、五、六六及び八、六、七三九)

喜田 貞吉

日蓮の所謂旃陀羅は漁人の稱にて決して穢多の謂に非ざること述べ(以上四項松本信廣)

The American Historical Review.

Vol. 27. No 2— Vol. 28. No. 1.

Europe, Spanish America, and the Monroe Doctrine, (Dexter Perkins)

歐洲大陸の諸列強中佛蘭西は最も早くよりスペイン、アメリカ殖民地と重大なる利害關係を有した。佛蘭西の商人階級は佛蘭西人の企業に對して同殖民地の門戸を開放し獨立を承認すべしと唱ふるものすらあつたが佛蘭西政府は西班牙の鼻息を伺ふことに汲々として同殖民地にブルボン王家を樹立しやうと計り西王の名を以つて列國會議を開催し之が援助と承認とを得やうとした。此時に當つてモンローの宣言が佛蘭西に送られたのであつたが佛蘭西政府は此問題に關して些も米國の存在を顧みず會議に合衆國を參加せしむることを欲しなかつた。英國はモンローの宣言を否認はしたが然し會議に參加することも拒絶した。西班牙を援助することは殖民地に武力を加ふることを好まぬ英國との戦争を意味したために佛蘭西の首相は會議開催の目的を斷念してしまつた。されど彼等は決してスペイン、アメリカにブルボン王朝樹立の希望を放棄したのではなく一八二四年の初めこの意圖は露西亞佛蘭西の諸國によつて唱えられてゐた。結局モンローの宣言は當時歐洲諸列強の亞米利加大陸に對する干渉を斥けるには何等の功獻をもなさなかつたものと云ふことが出来る。

Garibaldi's Sicilian campaign as reported by  
an American Diplomat. (H. Nelson Gay)

此一編は一八六〇年の初め南部伊太利に於ける暴君政治を轉覆し人民の自由を確立し且つ伊太利を外國の壓迫から救ひその全き統一を計らんがためにカリバルヂーが兩シシリイ王國の遠征を試みた際チュールン駐在の合衆國大使ジョン、ダニエルが本國政

府に寄せた報告に基いてカリバルヂーの征戰を叙述したものである。此より先き一八六〇年三月二十四日佛蘭西とビドモンとの會議の結果ビドモンは佛蘭西にニース並にサボイを割讓するこゝとなりカリバルヂーは甚く之を憤りニースに革命を惹起せしめやうとして之が援助をダニエルに申出た事實がある。然るにカリバルヂーは程なく勃發せる南伊の擾亂にその愛國心の全部を向けることとなり遂に軍艦を率ひて征途に登つた。この遠征に對してサルヂニヤ政府と英國とが黙認と援助を與えてゐたことは公然の秘密であつた而してカリバルヂーの遠征が納めた大成功の中に一部合衆國々民の熱誠なる後援を認めなければならぬ。伊太利人の血を承けた合衆國を始め然らざる多數の合衆國人が直接間接に如何に莫大なる力添をしたかは本編に於て詳細に知り得るのである。中にはカリバルヂーのために佛蘭西の老艦三隻を買取しこれによつて兵器彈藥の供給をしたものであつた。フィンケイ並にウイリアムデ、ローハンの如き最も著しき後援者であつた。筆者は最後に西シシリイ王國の軍艦のために拿捕せられたる合衆國チャールズ號とシェーン號に關する交渉の顛末を記して稿を終つてゐる。微力なりし兩シシリイ王國は合衆國船の正當なる拿捕に對してすら合衆國領事の強抗なる抗議に遇つて如何ともなす能はず在舊して最後の解決を見ざる間に同王國は存在を失ふこととなつてしまつた。

Webster's Seventh of March Speech. (H. P. Foster)

南北戦争に先立つこと十年の一八五〇年當時合衆國には分裂運

動の兆が極めて熾烈であつた。同年の七年南方の九州は一七六名の代表者を送つてナツシユビルの會議を開いた。然し乍らその結果が最後の破裂に至らずして終つたのは一つに北方の溫和政治家たるウエプスターの演説の賜であつた。筆者は先づ分裂運動の旺盛を極めたる状態を述べ次に三月七日に (The Constitution and the union.) なる題下になしたるウエプスターの演説が如何にナツシユビル會議の過激なる形勢に變化を與へ得たかに就いて詳述してゐる。

### The School for ambassadors. (J. J. Jusserand)

筆者は駐米佛國全權大使としてアメリカに十餘年の外交官生活を送つた人である。彼は先づ彼自身が身を外交官生活に委れるに至つた動機を簡単に叙べ次に外交の由來並にその使命を説き進んで外交官として立つに必要なる諸要素に就き諸家の所説を擧示し古代中世の實例に基いて外交官の心得べき點警むべき點尊重すべき點等を示しかつて彼は外交官の最も重大なる任務は「分離と戰爭とは非ずして平和と協調とを産むにある」と云つた Dollar の言葉の主旨を全編に亘つて布衍してゐるのである。

### Jay's treaty and the northwest boundary gap.

#### (S. F. Bemis)

一七八二年の英米條約は當時合衆國の西北境に關する知識が確實でなかつたために英米の國境として決定したミシシッピ河の發源地とウッド湖の西端との間に約一七五哩に亘る空地を生ずるといふ大失態を醸し然もこの事實は九年の間發見されずにゐた。

この條約によつて從來英國人の勢力下にあつた有利なる毛皮の産地は悉くアメリカの有に歸してしまつた。これが損失を補ふために探險隊を派してカミニスチクイア河とニピゴン湖との地方に有望な地を發見した。然し乍ら間もなく英國政府は暫時平和條約の保留を決し同地方に駐屯せる英國軍隊の撤退を中止することとなつた。斯くてこの問題は一七九四年のシェー條約が締結される迄は紛紜を重ねて解決を見なかつた。本編の説く所は主としてシェー條約の成立の經過であつて英國が如何にして毛皮の取引に關する永久的なる通商上の基礎を國境上に獲得し得たか如何にしてカナダの北西に通ずる大水路を獲得し得たか如何にしてミシシッピ河の通船權や同河の東岸に於ける商業上の利益を贏得るに至つたかに就いて詳述してゐる。國境問題に關してワシントンの内閣はハミルトン對シェファアソンの意見の背馳を見た。この條約は英米相互の利益を目的としてゐたにも拘らず米人はハドソン、ベリ、コムパニーの領域内へ入ることを禁ぜられてゐたためにこの條約はアメリカにとつて最も不利なるものであつた。ハドソン、ベリ、コムパニーの歴史に關しても吾人は本編に就いて知ることが出来る。

### Science at the Court of the emperor Frederick

#### II. (Charles H. Haskins)

シシリイ王フレデリック二世の王室は宛然智的興味を中心地たるの觀を呈してゐた。王の祖父ロツチャー王は地理學に對して非常なる興味を有してゐたがフレデリック二世は哲學天文學博物學

理學數學衛生學等總ゆる學問に對して深甚なる興味と研究心とな抱いてゐた。其故彼の王室には西班牙北部伊太利希臘は勿論のこと埃及サラセン、シリヤ等の諸國から各方面の學者が狩り集められ王のために各自の研究を重ねてゐた。とは云へ當時未だ科學は一個の専門として獨立の地位を有する迄に進んでゐなかつたので一人の學者が數種の學問の研究に従事し多くの學者は國家の官職をも兼ねてゐた。其故學問は片手間の仕事たるの觀を免れなかつたがその結果は官學の隆盛を見ることとなり却つて好結果を産んだ。本編にはフレデリック二世の下に如何なる學者が在り如何なる仕事に従事したかが乏しい資料に基いて然も詳細に記述されてある。

### The development of Metropolitan economy in

#### Europe and America. (N. S. B. Gras)

一、國家經濟は生産の單位即ち組織として眞に正當なりや、  
二、都市經濟即ち大商業市の勢力は之に代るべきものなりや、  
三、都市發達に關し如何なる實例が歐米に於て見らるゝか、  
筆者の論ずる所は右の三問題である。シモモラーやビュッヒャーの主張した如き國家經濟を以つて生産單位となす説の誤れることを第二問の解決即ち都市經濟が國家經濟よりも重要な所以を根本的に説明して以つて反證となし更に進んで近世に於ける歐米都市發達の好例としてロンドン市を選びその發達の四方面即ち都市に於ける市場の發達製造業の大發達運輸機關の發達並に財力の集注より之を説明し最後に米國に於ける都市經濟發達に關して述

べてゐる。蓋し近世都市經濟の發達を知らんと欲するものゝ一讀して可なる論文である。

### The secretary of state for the colonies. 1768-1782. (Wethur H Bayse)

所謂 Third secretary を投置しやゝとした際に如何なる議論が英國議會に於て行はれたか。これに他の國務大臣に比して如何なる權能が與へられたか。又第三國務大臣設置の結果商務局に如何なる影響を及ぼしたか。商務院總裁を兼ねるに至つてから第三國務大臣は何れの官職を主としたか等。本論は一七六八年より一七八二年に至る迄の間存在した英國の第三國務大臣即ち殖民大臣の歴史と此が權能の變遷並ひに此に對する議會の論議とに關して詳述してゐる。

### The American grain trade to the Spanish

#### Peninsula, 1810-1814. (W. Freeman Galpin)

殖民地時代並に獨立戰爭時代に於て英國はアメリカから莫大なる穀物の供給を受けてゐたが一八一〇年の夏より一八一一年にかけて莫大なる穀物が西班牙半島に送られた。即ちそれは西班牙に駐屯してゐた英國軍隊の兵糧に充つるためのものであつた。然るに英國の國交が斷絶し終に禁輸條令の布告を見るに至つたが英國領事の特許狀によつて依然として西班牙に穀物の輸出が行はれてゐた。この通商道德上不倫の行爲は合衆國議會の問題とはなつたが久しく農民と船舶業者の利割に拘束されてこれが取締法の通過を見なかつたけれども終に英國の特許狀によつて通商を行ふこと

を蒙る法令は一八一三年五月上院を同月七日下院を通過した。此が及ぼす影響は甚大ではあつたが已にこの法令を見ずとも英國は一八一二年の末より米國の穀物に執着するの不必要なる状態にあつたのでアメリカ人の特許状による通商はこの法令通過以前に衰滅してゐた理である。吾人は本編によつて一八一〇年より一八一四年に至る間英國が如何なる手段に訴へて米國の穀物を吸収することに腐心したか而して米國議會は如何に此問題を取扱つたかを知ることが出来るのである。

### Seward's Far Eastern Policy (Tyler Dennett)

支那の門戸開放政策に關して米國の國務卿セワードは列強と協調の方針を採つた。彼の政策は前任者のそれに比して極めて放膽なものであつて就中極東に於ける米國の有利なる通商上の機會を確保した。彼は國務卿就任以前より已に極東との通商を力説してゐたが決して領土的野心からではなかつた。彼は日本に於けるアルコツクやパークス等の暴力を惡み溫和な協調政策によつて東

## 彙報

### 關西方面史學研究旅行記

慶應義塾大學文學部史學科に於ては、例年史料研究を目的とす

洋に於けるアメリカの利益を確保出來ると信じた。然し乍ら一八六一年の五月日本が一八五八年の條約を履行しないとの報告に接した彼は聯合艦隊の派遣を列國に提議し日本に對して強抗なる態度に出て其後彼の威嚇政策は朝鮮にも及ぼされるに至つた。一八六六年朝鮮に於ける佛國宣教師の殺害は佛國の朝鮮征伐となり更に米人の殺害は米國をして同様な行動に出しめたけれども一面米國は佛國が朝鮮をその保護國たらしめることを恐れたがためであつた。其故この疑問が晴れてからのセワードの對東洋政策は元の協調主義に還つた。セワードの在任中アラスカを露國より買収したがこれは通商上の意味よりは海軍の根據地を北太平洋に得んとする政治的意味に於てであつた。要するに彼の太平洋と東亞とに對する政策は協調主義にあつたのであつて彼の採つた武斷的行爲は協調を成就するための代償であつた。本編の結論に於てセワードの人物並に彼の政策を批評せる條は吾人の頗る興味深き點である。

(恒松安夫)

る旅行を繼續してゐるが、今秋は名古屋、奈良、法隆寺、高野方面へ見學に赴くことゝなつた。

大正十一年十月十二日、午後十時三十分折柄池上本門寺への賑